

第27回 日本社会福祉士会・全国大会社会福祉士学会(茨城大会)分科会 スケジュール表

会 場		中ホール200	大会議室102	中ホール300	中会議室201	中会議室202
分科会		地域支援	生活構造・相談援助	権利擁護・福祉経営	実践研究1	実践研究2
進 行		梅木 幹司	溝淵 智則	成田 すみれ	今村 浩司	稲嶺 裕子
1	9:25～9:30	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション
	9:30～10:00	熊本地震2年後のアンケート調査より ～社会福祉士会としての災害支援とは～	地域における子どもの貧困対策 ～理論と実践をつなぐ社会福祉士の役割に着目して～	成年後見制度利用促進における中核機関の機能整備と市民後見の推進 ～A町成年後見センターの実践にみる社会福祉士の役割～	在宅医療移行実践におけるソーシャルワークの整理 ～入院医療機関におけるSWの立場からの一考察～	地域療育センターにおける親子広場の意義 ～保護者の不安軽減効果に着目して～
		磯田 千絵（熊本） 《共同研究者》 窪田 寛史 小柳久美子 紫藤 千子 高濱 洋一	上原紀美子（福岡）	大澤 理尋（新潟）	郡 章人（徳島） 《共同研究者》 服部 百恵 井村 洋平 林 春菜	田幸 恵美（神奈川）
休憩 5分						
2	10:05～10:35	A県日市における多様な主体の連携・協力による生活支援体制整備事業の段階的推進のための社会福祉実践：大学生及び障害者福祉施設の参画事例	農福連携において就農が継続する要因 ～農家等と障害者への聞き取り調査から～	介護施設従事者等による高齢者虐待の実態と要因 ～ 高齢者虐待防止に向けた行政による事業者支援のあり方 ～	がん分野における両立支援コーディネーターの実践 ～ソーシャルワークの視点から～	聴覚障害者が安心して社会資源を利用できる社会をめざして ～聴覚障害者相談員の自主研修をとおしてみえてきたこと～
		島田 拓巳（青森） 《共同研究者》 小柳 達也	合田 盛人（長野）	西川 孝史（滋賀）	林 恵子（東京） 《共同研究者》 加藤 宏一	赤石 いづみ（大阪）
休憩 5分						
3	10:40～11:10	ソーシャルワークの社会開発とその実際 ～フィールドワークからの地域性を活かした作業所の製品開発までの過程～	高次脳機能障害を呈する患者の退院支援について 障害特性から生活支援体制づくりを考える	介護職員の就労前の経験の違いと就労継続意向の強さに関する研究 ～量的分析によるアプローチ～	無料低額診療を利用する患者から見える貧困 ～急性期病院で勤務するSWの支援を通して～	地域自立支援協議会におけるソーシャルアクションの展開 ～相談支援専門員を対象とした連絡会の設置運営を通して～
		西川ハンナ（埼玉）	隅原 聖子（広島） 《共同研究者》 山本佐和子	三山 亮（広島）	吉村 祐奈（福岡） 《共同研究者》 森川 尚子 小山 朝生 西村 倫代 都合 仁美	柴田 愛（兵庫） 《共同研究者》 後藤 謹武 石田香緒里
休憩 15分						
4	11:25～11:55	精神障害をもつ人の地域生活継続に向けた支援に関する研究 ～就労継続支援B型事業所を退所した後の活動と準備～	地域包括ケアシステムにおける精神科ソーシャルワーカーの役割に関する一考察	青森県の医療機関におけるソーシャルワーカーの業務継続要因に関する研究 ～経験年数の違いによる調査項目の比較結果からわかること～	就労意向のある方への支援に関する研究 当センターを退院した7名の語りからMSWの役割を考察する	触法障がい者・高齢者の出所後の支援の必要性 ～エコマップを用いた介入前後の分析をととして～
		小田倉典子（千葉）	新美 咲月（神奈川） 《共同研究者》 門松由美子	中村 直樹（青森） 《共同研究者》 工藤 雄行 成田 浩世 穂元 通武 尾崎 麻理 今 栄利子 葛西 孝幸	後藤 敦博（岩手） 《共同研究者》 上田 大介 阿部 泰子 青山 美音 石鉢みづほ 梶内 洋肇	松尾 典子（福岡）
休憩 5分						
5	12:00～12:30	西日本豪雨災害時における被災者支援活動及び士業連携 ～2014年8月以降の取り組みから2018年7月にできたこと、できなかったこと～	地域における障害者支援に関する一考察 ～X県地域生活定着支援センターの支援対象者に関する分析調査の結果から～		社会福祉士会が「家計相談支援事業」を受託する意義 ～2015年から現在までの実践を通して～	障害受容が難しく就労支援が困難であった求職者の福祉就労実現へのプロセスの考察
		三上 和彦（広島） 《共同研究者》 平岡 和子 吉田 隆宏 河野 喬 岡村 将宏 原本 明美 百川 晃	酒寄 学（茨城） 《共同研究者》 宇留野功一 加藤めぐみ 宇留野光子 渡邊 久実		長塩 礼子（埼玉） 《共同研究者》 中村 裕治 長田 恭子 斎藤 逸子 押田 秀人 稲村 允江	猿田 健一（秋田）

会 場	中会議室406	小会議室405	大会議室101
分科会	自主企画シンポジウム1	自主企画シンポジウム2	茨城特別分科会
進 行	吉原 徹	吉田 光子	柏 知子
9:25～9:30	オリエンテーション	オリエンテーション	オリエンテーション
9:30～12:30	性の多様性とソーシャルワーク ～新たな時代の地域共生社会に向けて～	社会福祉士は「障害理解」をどのように展開すべきであるのか ～「東京2020」を機に、さらなる社会の理解を目指して～	当事者から学ぶソーシャルワーク
	○コーディネーター 荒木 晴美（富山） ○シンポジスト 松尾 祐子 加藤 慶 尾辻かな子	○コーディネーター 山本 雅章（東京） ○シンポジスト 新井 寛 谷内 孝行	○コーディネーター 草間 吉夫（記念講演） ○当事者の方（3名を予定） 私たちが社会福祉士が拠りどころとする倫理綱領や行動規範には、「利用者本位」の原則が明言されています。また、今後目指すべき「地域共生社会の実現」においては、地域生活の中で利用者本人に寄り添って支援をして行く専門職人材の育成が必要とされています。 私たちが実践の場で行っている支援は、果たして「利用者本位」で「寄り添う支援」となっているのでしょうか。いつしか自己満足な支援に陥ってはいないでしょうか。 今回は、私たちソーシャルワーカーの支援を受ける立場の当事者の方々からのお話をもとに、私たちソーシャルワーカーの支援を再点検し、改めて私たちが目指すべき支援の方向性を明確にする機会としてこの分科会を企画いたしました。
<分科会のながれ(予定)> 9:30～ 挨拶・趣旨説明 9:35～ 当事者の方のお話 ・15分×3名 10:20～ 休憩 10:35～ ディスカッション等 12:00～ フリー交流会 (30分程度)			